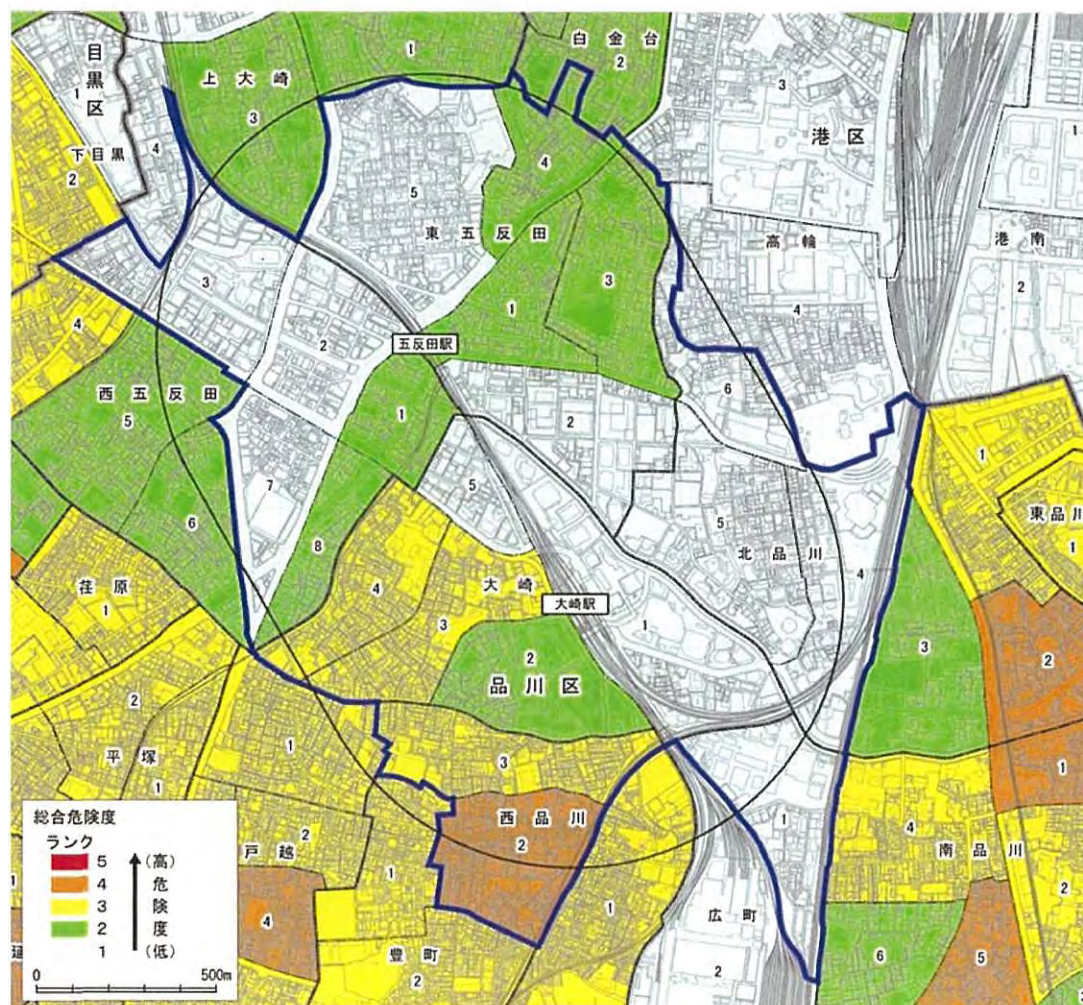


2. 現況および課題の把握

【総合危険度】

大崎駅周辺地域における総合危険度（建物倒壊と火災危険度を総合したもの）の状況は、以下のとおりである。

図表 33 総合危険度^{1,22}

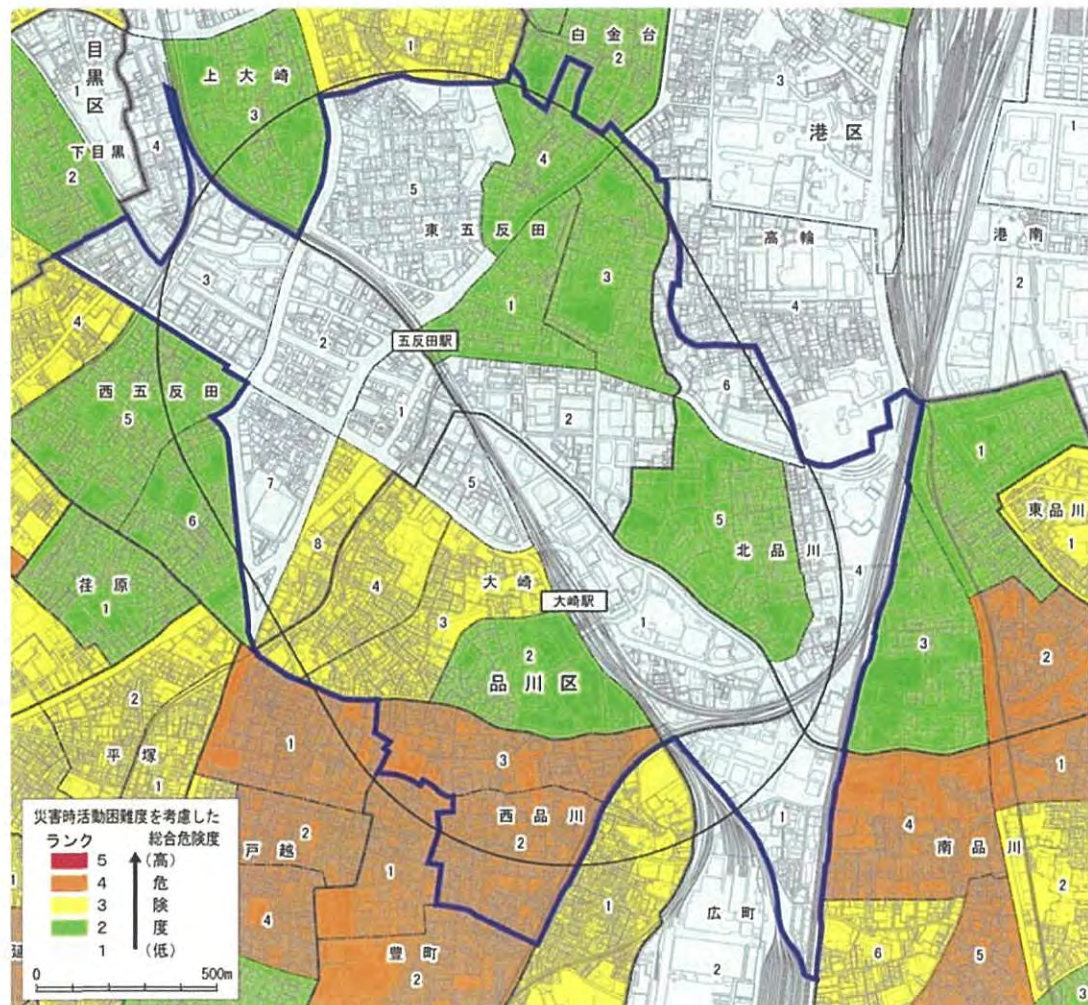


・西品川2丁目で危険度4、西品川3丁目、大崎3、4丁目で危険度3となっている。

【総合危険度（災害時活動困難度を考慮した危険度）】

大崎駅周辺地域における総合危険度（災害時活動困難度を考慮した危険度）の状況は、以下のとおりである。

図表 34 総合危険度（災害時活動困難度を考慮した危険度）^{1,22}



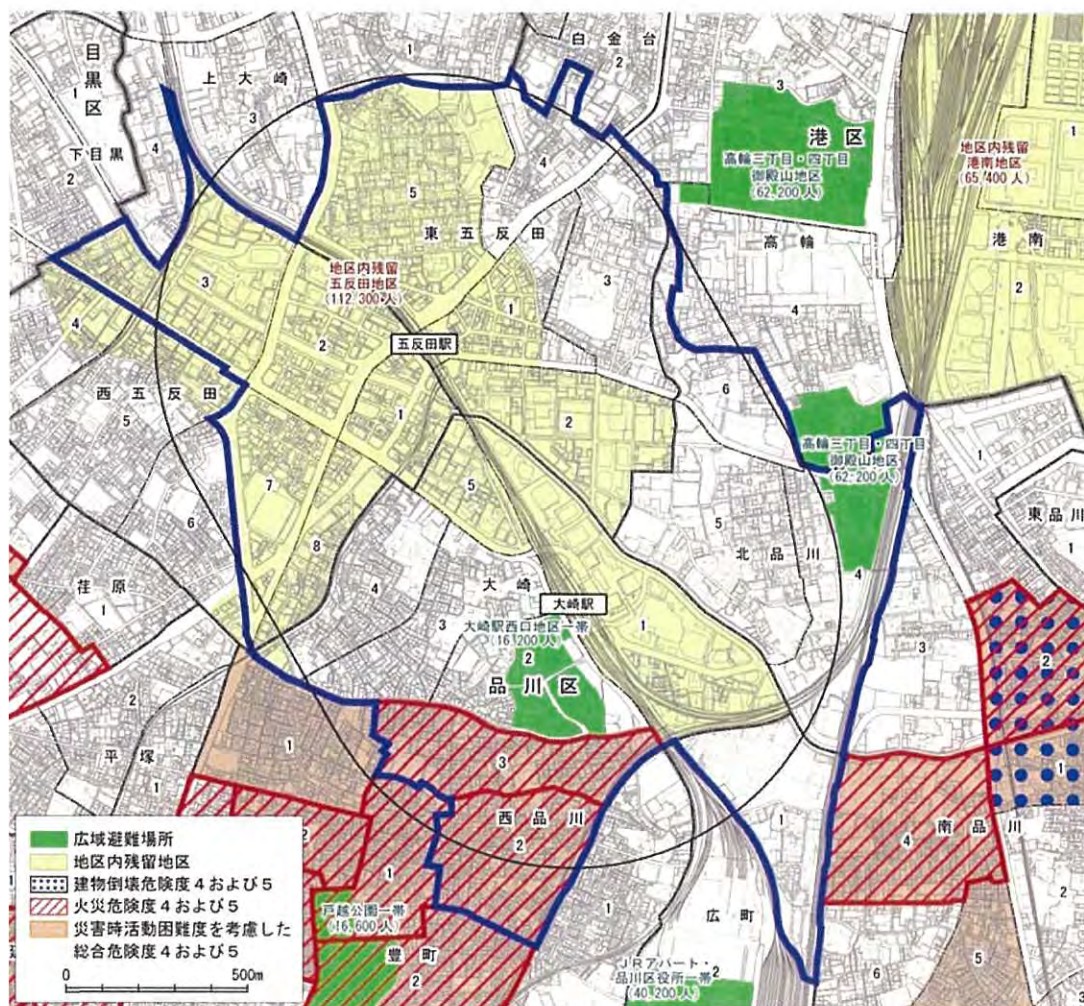
- ・西品川2、3丁目で危険度4、大崎3、4丁目、西五反田8丁目で危険度3となっている。

2. 現況および課題の把握

【地域危険度調査を踏まえた地域防災性のまとめ】

大崎駅周辺地域における総合危険度(災害時活動困難度を考慮した危険度)、広域避難場所、地区内残留地区等は、以下のとおりである。

図表 35 地域防災性のまとめ^{1,22}



- ・西品川 2、3 丁目で災害時活動困難度を考慮した総合危険度 4 となっている。
- ・五反田駅を中心としたエリアは、地区内残留地区に指定されている

d. まとめ

大崎駅周辺地域における建築物に係る地域特性は、以下のとおりである。

【建物用途】

- ・大崎駅側は、大規模な業務施設、集合住宅が中心となっている。五反田駅側は、商業、業務、宿泊、集合住宅等、様々な用途が分布している。駅から少しはなれたエリアでは、小規模な集合住宅、独立住宅の他、教育文化施設の立地もみられる。
- ・五反田駅側は大崎駅側よりも来訪者の人数が多く、多様な属性の人々が帰宅困難者となる可能性がある

【建物構造】

- ・大崎駅の東側と五反田駅周辺は耐火構造の建物がほとんどである。大崎駅の西側は駅に隣接する街区は再開発により不燃化が進んでいるが、大崎3、4丁目、西品川2、3丁目は防火構造の小規模な建物が密集している。
- ・滞留者が多く発生する駅直近部は不燃化が進んでいるが、周辺の火災延焼の恐れがある住宅地等からは滞留者が安全に避難することができるよう、適切な避難路の設定や誘導に配慮する必要がある。

【地域危険度調査】

- ・五反田駅を中心としたエリアは、地区内残留地区に指定されている。災害時の避難や消火・救援活動の困難度を考慮した総合危険度において、西品川2、3丁目で危険度4、大崎3、4丁目、西五反田8丁目で危険度3となっている。特に、西品川2、3丁目は、火災危険度が4と高くなっている。
- ・危険度が低いエリアでは、大量の滞留者を安全に誘導・滞留させることができるよう、取り組みを進めることが必要と考えられる。危険度が高い地域では、地区内での避難が難しい場合、地区外への避難についても想定する必要がある。

2. 現況および課題の把握

ウ 道路・交通施設

a. 道路

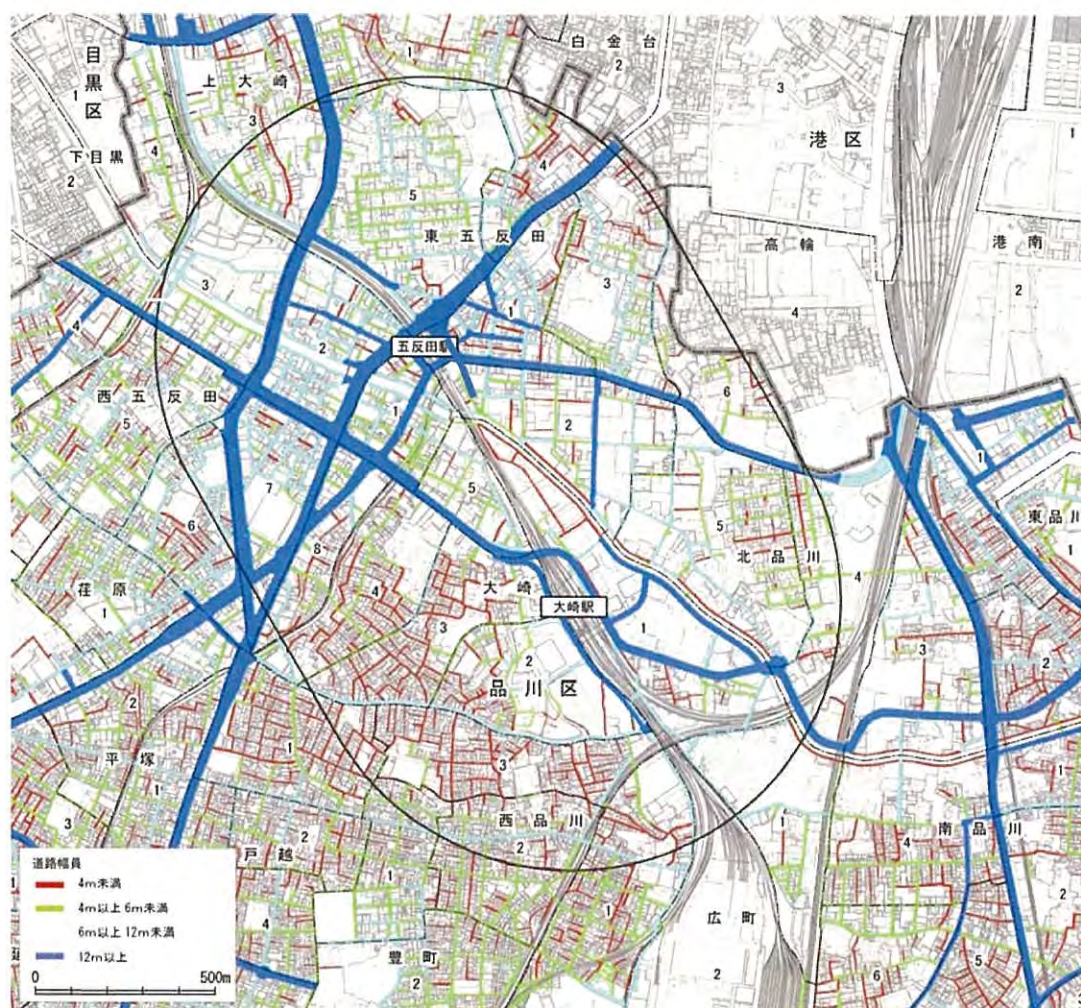
【道路幅員】

広幅員で交通量の多い駅周辺では車・歩行者の混雑、駅から少し離れた住宅地は細街路や建物倒壊等による道路閉塞により、避難所への避難支障が課題として想定される。

- ・ 地区内残留地区に指定されている五反田駅周辺と大崎駅東側のエリアは、広幅員の主要幹線道路が通り、地区内は碁盤の目状に道路が整備されている。
- ・ 東五反田2丁目、大崎1、2丁目、北品川5丁目などにおいては、近年大規模開発に合わせた道路整備が進められている。
- ・ 大崎駅の南西側のエリアでは幅員4m未満の細街路が多くみられる。

滞留者の多い駅周辺では、渋滞による道路閉塞が生じ、駅出入口やデッキ付近、緊急輸送道路の横断歩道等が避難の際のボトルネックとなる可能性がある。

図表 36 現在の道路幅員の状況^{1,23}



【橋りょう】

品川区では、車道橋と人道橋（歩道橋含む）を合わせて、70橋の橋りょうを管理している。区で管理する橋りょうは、落橋防止装置等の設置による耐震化がおおむね完了している²⁴。

図表 37 品川区管理の橋りょう（大崎駅周辺地域）²⁵

橋名	箇所		種類	
	路線名	位置		
亀甲橋	目黒川	西五反田3丁目6 西五反田3丁目11	特別区道橋	鋼橋
市場橋	目黒川	西五反田3丁目6 西五反田3丁目11	特別区道橋	鋼橋
ふれあいK字橋	目黒川	西五反田1丁目10 西五反田1丁目13	特別区道橋	鋼橋
山本橋	目黒川	東五反田2丁目14 大崎1丁目1	特別区道橋	鋼橋
御成橋	目黒川	東五反田2丁目15 大崎1丁目2	特別区道橋	鋼橋
鈴懸歩道橋	目黒川	東五反田2丁目15 大崎1丁目5	特別区道橋	鋼橋
三嶽橋	目黒川	北品川4丁目11 広町1丁目2	特別区道橋	鋼橋
要津歩道橋	目黒川	北品川3丁目11 南品川4丁目1	特別区道橋	鋼橋
要津橋	目黒川	北品川3丁目11 南品川4丁目1	特別区道橋	鋼橋
○歩道橋	都道	大崎1丁目6 大崎1丁目21	特別区道橋	鋼橋
小関橋	目黒川	大崎1丁目10 北品川5丁目6	特別区道橋	鋼橋
北品川橋	旧目黒川	北品川1丁目23 東品川1丁目7	特別区道橋	鋼橋
谷山橋	東京急行池上線 跨線橋	西五反田8丁目6 大崎4丁目12	特別区道橋	鋼橋
新桐谷橋	東京急行池上線 跨線橋	平塚2丁目3 平塚1丁目3	特別区道橋	コンクリート 橋
本村橋	目黒川	西五反田2丁目20 西五反田2丁目22	特別区道橋	PC橋
小関歩道橋	目黒川	大崎1丁目10 北品川5丁目6	特別区道橋	PC橋
荏川橋	目黒川	北品川2丁目30 南品川1丁目2	特別区道橋	PC橋
太鼓橋	東京急行池上線 跨線橋	平塚1丁目9 平塚2丁目20	特別区道橋	PC橋
京陽橋	東京急行池上線 跨線橋	平塚1丁目10 平塚3丁目10	特別区道橋	PC橋
二中橋	東京急行池上線 跨線橋	平塚1丁目16 平塚3丁目11	特別区道橋	PC橋
御殿山橋	JR東海道新幹線 東海道線・山手線横 須賀線・京浜東北線	北品川4丁目7 北品川3丁目5	特別区道橋	混合・ プレビーム橋
森永橋	目黒川	北品川5丁目8 大崎1丁目11	特別区道橋	混合・ プレビーム橋
東八ツ山歩道橋	区道	北品川1丁目6 北品川1丁目14	特別区道橋	横断歩道橋

(次頁に続く)

2. 現況および課題の把握

(前頁の続き)

橋名	箇所		種類	
	路線名	位置		
八ツ山歩道橋	区道	北品川1丁目5 北品川1丁目7	特別区道橋	横断歩道橋
栄歩道橋	区道	北品川1丁目5 北品川1丁目3	特別区道橋	横断歩道橋
台場横断歩道橋	区道	北品川1丁目30 東品川1丁目29	特別区道橋	横断歩道橋
夢栈橋	J R 山手線 りんかい線 都道・区道	大崎1丁目11 大崎2丁目1	特別区道橋	横断歩道橋
百反歩道橋	J R 山手・貨物線 りんかい線	大崎1丁目21 西品川3丁目21	特別区道橋	横断歩道橋
大崎取付デッキ	区道	大崎1丁目4	特別区道橋	横断歩道橋

図表 38 東京国道事務所品川出張所管理橋りょう（大崎駅周辺地域）²⁶

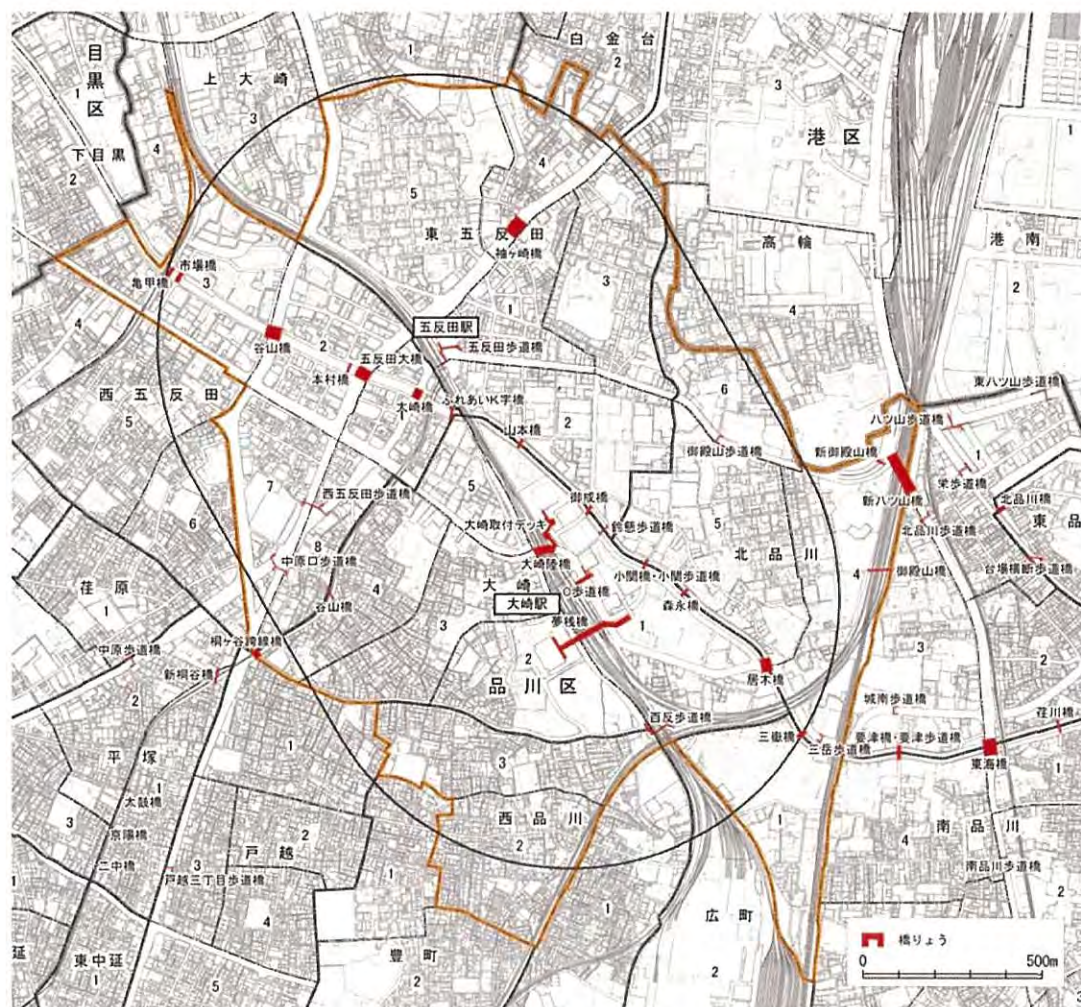
橋名	箇所		種類
	路線名	位置	
五反田大橋	国道1号	西五反田1丁目3	橋
桐ヶ谷跨線橋	国道1号	西五反田8丁目9	橋
御殿山橋	国道15号	北品川4丁目	橋
新八ツ山橋	国道15号	北品川4丁目	橋
東海橋	国道15号	北品川2丁目34	橋
袖ヶ崎橋	国道1号	東五反田1丁目2 - 33	橋
西五反田歩道橋	国道1号	西五反田8丁目8	横断歩道橋
中原口歩道橋	国道1号	西五反田8丁目10	横断歩道橋
戸越三丁目歩道橋	国道1号	戸越3丁目5	横断歩道橋
北品川歩道橋	国道15号	北品川3丁目3	横断歩道橋
南品川歩道橋	国道15号	南品川4丁目19	横断歩道橋

図表 39 東京都第二建設事務所管理橋りょう（大崎駅周辺地域）²⁷

橋名	箇所		種類
	路線名	位置	
居木橋	目黒川	北品川4丁目 大崎1丁目	鋼橋
大崎橋	目黒川	西五反田1丁目	鋼橋
大崎陸橋	J R 東日本・区道	大崎1丁目 大崎5丁目	鋼橋
新御殿山橋	都道	北品川4丁目	鋼橋
谷山橋	目黒川	西五反田2丁目 西五反田3丁目	P C 橋
五反田歩道橋	山手通り	東五反田2丁目1 東五反田1丁目2 6	横断歩道橋
御殿山歩道橋	山手通り	北品川5丁目5 北品川6丁目7	横断歩道橋
城南歩道橋	山手通り	北品川3丁目1 0 北品川3丁目9	横断歩道橋
中原歩道橋	中原街道	平塚2丁目6 荏原1丁目2 2	横断歩道橋
三岳歩道橋	山手通り	北品川4丁目1 1	横断歩道橋

2. 現況および課題の把握

図表 40 大崎駅周辺地域の橋りょう位置図¹



【がけ地】

「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」（昭和44年7月1日法律第57号）では、傾斜度が30度以上ある土地を急傾斜地と定めている。このうち、高さが5m以上、想定被害地域内に5戸以上の人家が存在するなど、一定の要件を満たすものが急傾斜地崩壊危険箇所とされている。

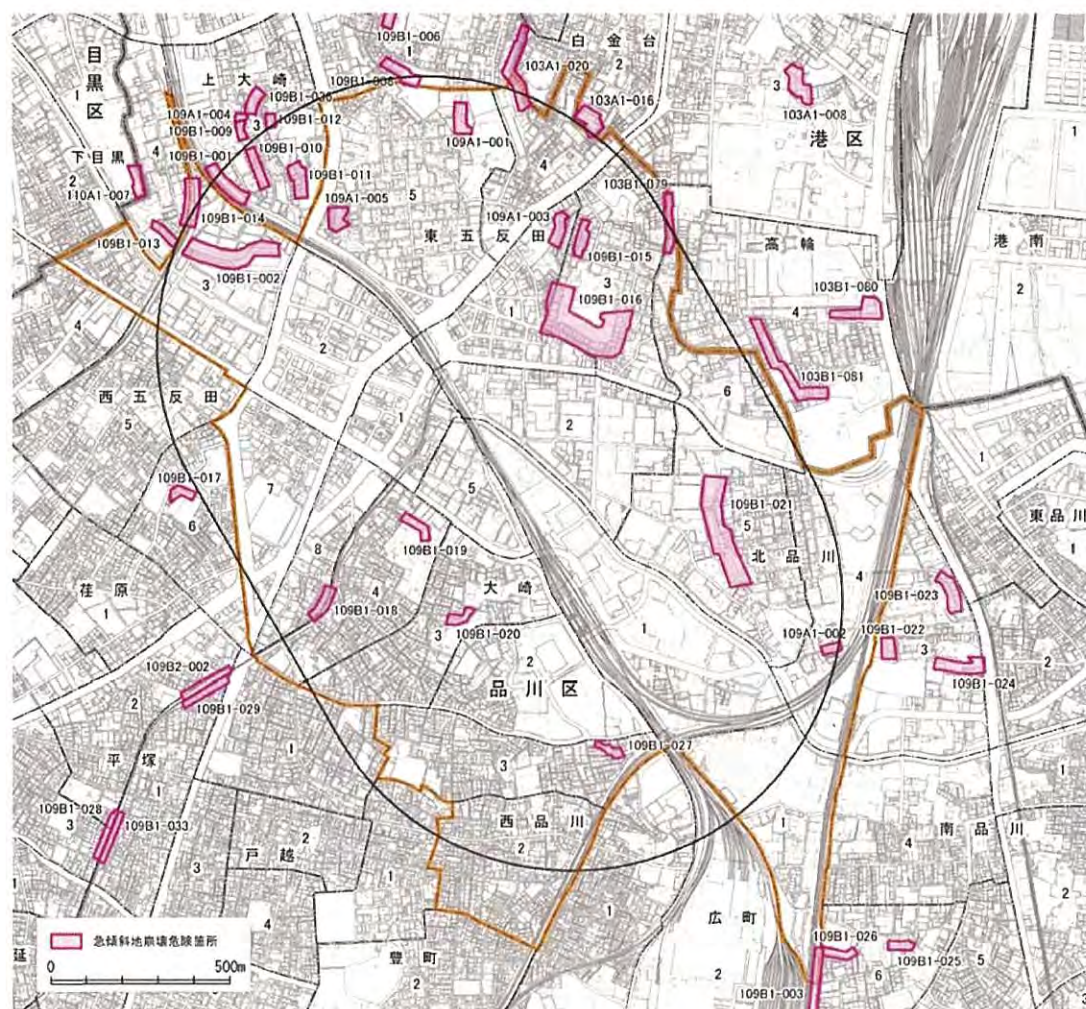
- ・大崎駅周辺地域の急傾斜地崩壊危険箇所は、以下のとおり20ヶ所が分布している。

図表 41 急傾斜地崩壊危険箇所一覧²⁸

箇所番号	所在地	備考
103A1-016	白金台2丁目27	
103A1-020	白金台2丁目20	
103B1-079	高輪4丁目1	
109A1-001	東五反田5丁目9	
109A1-002	北品川4丁目9	
109A1-003	東五反田	
109A1-005	東五反田5丁目20	
109B1-001	上大崎3丁目11	
109B1-002	西五反田3丁目3 - 6	
109B1-008	上大崎1丁目19	
109B1-010	上大崎3丁目12	
109B1-011	上大崎3丁目14	
109B1-014	上大崎4丁目6	
109B1-015	東五反田3丁目7	
109B1-016	東五反田3丁目16	清泉女子大学付近
109B1-018	西五反田8丁目10	
109B1-019	大崎4丁目2	立正大学付近
109B1-020	大崎3丁目12	芳水小学校付近
109B1-021	北品川5丁目9	
109B1-027	西品川3丁目20	

2. 現況および課題の把握

図表 42 急傾斜地崩壊危険箇所位置図^{1, 29}



【線路横断等】

大崎駅周辺地域は、南北にＪＲ山の手線等と目黒川が流れており、五反田駅は東西に桜田通り、大崎駅の南側にはＪＲ横須賀線・東海道新幹線の線路が横切っている。

大崎駅側は都市基盤整備が進んでいるため、道路やデッキ等で東西の行き来ができる箇所が複数あるが、五反田駅の南から大崎駅の北側までは約400m、大崎駅の南側は約300m東西横断ができない。ＪＲ線を挟み、東西の市街地それぞれは、五反田駅～大崎間で連続しており、東五反田２丁目など、両駅からのアクセスが良い都市開発エリアも存在する。

以上より、避難シミュレーション等を行う際に考慮すべき線路横断等の状況について、以下のとおり整理する。

■大崎駅南側

- ・大崎駅南西側の市街地は、道路幅員が狭い木造密集市街地となっており、地域危険度が高い。そのため、東海道新幹線等を挟んで、西品川２丁目の住宅地から西品川１丁目の再開発広場（事業実施中）への避難が考えられる。現在事業実施中の再開発事業により、東海道新幹線等の高架下改善（地下道改善、高架下道歩専道等）が行われている。

■五反田駅周辺

- ・ＪＲ線および東急池上線は高架となっており、地上での行き来が可能だが、横断歩道は少なく、東口駅前広場付近は歩道橋が整備されている。
- ・駅の北側、地下に地下鉄浅草線が通る桜田通りは、中央分離帯のある広幅員道路となっており、横断可能箇所（横断歩道）は少ない。

■五反田駅北側

- ・五反田駅北側、西五反田２丁目、西五反田３丁目付近は、ＪＲ線が盛土となっており、都道418号・首都高速２号目黒線との交差点以外、東西市街地の行き来ができない。

2. 現況および課題の把握

b. 交通施設

【鉄道】

大崎駅は、J R 東日本の山手線、埼京線、湘南新宿ライン、東京臨海高速鉄道りんかい線の4路線が乗り入れるターミナル駅である。1日の平均乗車人員（平成22年度）は、約18万人（乗り換え含む）であり、乗降客数は約40万人弱となる。

五反田駅は、J R 東日本の山手線、東京急行電鉄池上線、都営地下鉄浅草線の3路線が乗り入れるターミナル駅である。1日の平均乗降人員（平成22年度）は、約21万人（乗り換え含む）であり、乗降客数は約40万人強となる。

図表 43 区内の主要駅における1日あたり平均乗車人員（平成22年度）³⁰

J R 東日本			京浜急行電鉄		
	- 目黒駅	102,310人		- 青物横丁駅	22,363人
	- 五反田駅	129,154人		- 立会川駅	8,705人
	- 大崎駅	126,436人	東京モノレール		
	- 大井町駅	94,715人		- 天王洲アイル駅	14,337人
	- 西大井駅	14,501人		- 大井競馬場前駅	4,365人
東京急行電鉄			東京都交通局		
目黒線	- 目黒駅	115,482人	浅草線	- 中延駅	13,079人
	- 武蔵小山駅	23,434人		- 五反田駅	30,067人
池上線	- 五反田駅	50,172人	東京臨海高速鉄道		
	- 旗の台駅	29,424人	りんかい線	- 天王洲アイル駅	16,035人
大井町線	- 大井町駅	62,761人		- 品川シーサイド駅	21,576人
	- 旗の台駅	31,787人		- 大井町駅	33,495人
				- 大崎駅	50,653人

なお、大崎駅については、駅周辺の開発の進行により、年々駅利用者が増加している。J R 線の乗車人員（1日平均）は平成22年度の126,436人から平成26年度の145,672人、りんかい線の乗車人員（1日平均）は平成22年度の50,653人から平成26年度の60,467人に増加している。

滞留者等の推計においては、この利用者の増加を加味して算出を行った。

【バス】

大崎駅周辺のバス乗り場は、駅東口の山手通りと西口バスターミナルの2ヶ所であり、乗り場は全部で6ヶ所となっている。系統は東急バスの1系統の他、西口バスターミナルからは長距離高速バスが発着している。行き先は、路線バスは大井町駅と渋谷駅、高速バスは大阪、名古屋、新潟、仙台方面への路線が運行している。西口バスターミナルは平成27年12月にオープンしたばかりであり、今後も多くの都市と大崎駅を結ぶ高速路線の乗り入れが推進されることとなっている。

大崎駅の乗り場と発着のバス路線は以下のとおりである。

図表 44 大崎駅周辺のバス停留所³¹



図表 45 大崎駅周辺発着のバス路線³²

のりば	系統	行先（主な経由地）・備考	バス会社
山1	渋41	大井町駅（新馬場駅前・青物横丁・仙台坂・大井町駅東口）	東急バス
山2	渋41	渋谷駅（大崎広小路・不動前駅入口・中目黒駅・大橋）	京急バス
	渋41	清水（大崎広小路・大鳥神社前）	京急バス
西口0	渋41	渋谷駅（大崎広小路・不動前駅入口・中目黒駅・大橋）	東急バス
西口1	高速バス	大阪・境（京都）、新潟（長岡）、名古屋（豊橋）、仙台（福島）	各運行会社
西口2			
西口3			

※のりば番号の「山」は山手通り、「西口」は西口バスターミナルを指す。

2. 現況および課題の把握

五反田駅周辺のバス乗り場は、西口駅前広場、東口駅前広場の2ヶ所であり、乗り場は全部で5ヶ所となっている。系統は6系統で、都営バス、東急バスの2社が運行を行っている。

五反田駅の乗り場と発着のバス路線は以下のとおりである。

図表 46 五反田駅周辺のバス停留所³²



図表 47 五反田駅周辺発着のバス路線³²

のりば	系統	行先（主な経由地）・備考	バス会社
東口4	反01	川崎駅西口北（中延駅前・馬込駅前・西馬込駅前・池上警察署・多摩川大橋） ※荏原営業所行あり	東急バス
	反02	池上警察署（中延駅前・馬込駅前・西馬込駅前・本門寺裏） ※平日のみ深夜バスあり	東急バス
東口5	反94	赤羽橋駅前（高輪台駅前・明治学院前・古川橋・麻布十番駅前） ※朝・夕方のみ	都営バス
東口6	反96	六本木ヒルズ（品川駅前・古川橋・麻布十番駅前・六本木ヒルズ・六本木駅前） ※御殿山行あり	都営バス
西口7	渋72	渋谷駅東口（目黒不動尊・元競馬場前・茶屋坂・恵比寿駅） ※不動尊門前止あり。毎月28日は目黒不動尊の縁日開催に伴い、曜日に係わらず【縁日ダイヤ】で運転	東急バス
西口8	反11	世田谷区民会館（武蔵小山・学芸大学駅・野沢交番前・若林三丁目）	東急バス
	反11	弦巻営業所（武蔵小山・学芸大学駅・野沢交番前） ※1日2本のみ	東急バス

※のりば番号の「東口」は東口駅前広場、「西口」は西口駅前広場を指す。

c. まとめ

大崎駅周辺地域における道路や交通施設の特性は、以下のとおりである。

【道路】

- ・ 駅周辺部は鉄道や広幅員の幹線道路、目黒川等が市街地の分断要素となっているが、目黒川を渡る橋りょうや、大崎駅の東西をつなぐ自由通路やデッキの整備が進んでいる。五反田駅周辺は、駅前の広幅員道路を渡る横断歩道の位置が限られており、歩道橋の幅員も狭い。
- ・ 滞留者の多い駅周辺では、渋滞による道路閉塞が生じ、駅出入口やデッキ付近、緊急輸送道路の横断歩道等が避難の際のボトルネックとなる可能性がある。
- ・ 駅から離れたエリアでは、鉄道を横断できる箇所は限られるとともに、大崎駅の南西側のエリアでは、幅員4m未満の道路が多く見られる。
また、大学や学校付近に急傾斜地崩壊危険箇所が見られ、避難路の設定の際には注意が必要と考えられる。

【交通施設】

- ・ 大崎駅はＪＲ3線とりんかい線、五反田駅はＪＲ線、東急線、都営地下鉄の3線が発着するターミナル駅であり、1日の乗車人員は両駅とも約20万人前後と多くの人々が利用することから、帰宅困難者等の推計の際には鉄道利用者についても考慮することが必要と考えられる。

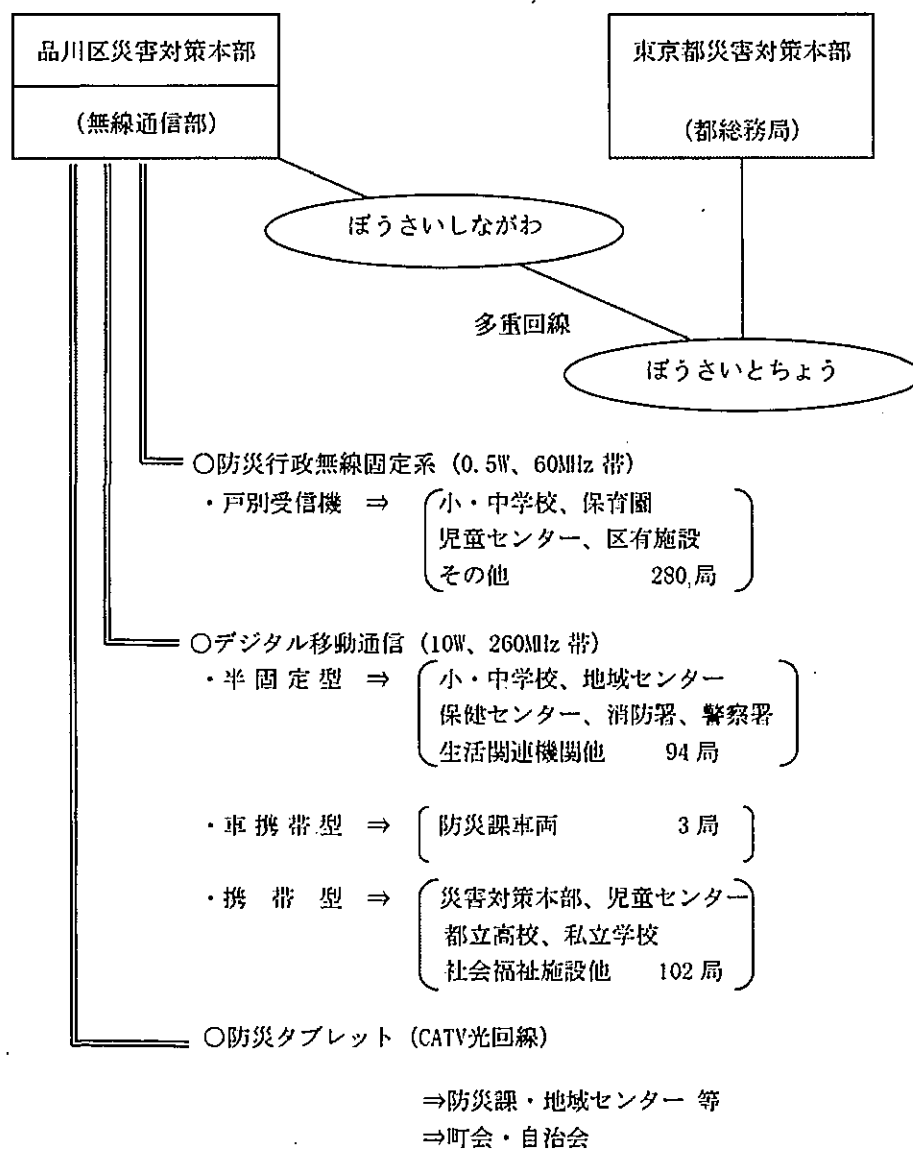
2. 現況および課題の把握

エ 防災関連設備・施設等

a. 防災行政無線

品川区では、平成19年度よりデジタル移動通信を導入している。防災関連機関や生活関連機関との通信手段として、災害時に避難所となる児童センターや私立学校等に機器を配備している。無線通信系統図は、以下のとおりである。

図表 48 無線通信系統図³³



b. 給水拠点

給水拠点は、以下のとおりである。

図表 49 給水拠点となる施設一覧³⁴

施設名	住所	使用可能水量
区立戸越公園（応急給水槽）	豊町2丁目1-30	1,500 m ³
区立しおじ公園（応急給水槽）	八潮5丁目6	1,500 m ³
都立八潮高等学校（小規模応急給水槽）	東品川3丁目27-22	100 m ³

また、震災対策用井戸の設置状況は、以下のとおりである。

図表 50 震災対策用井戸³⁵

設置場所	住所	日量
西大井広場	西大井1丁目4-10	約300m ³
戸越公園	豊町2丁目1-30	約170m ³
荏原第一中学校	荏原1丁目24-30	約100m ³

図表 51 給水拠点、震災対策用井戸位置図¹